

*** 北海道の国際的位置付け

我が国や国際社会が、その相互関係、国や地域の位置付けに変換を求められているなかで、北海道に期待されるこれからの位置付けを考えてみよう。

これまで北海道は、我が国が国際社会のなかでその位置を変える変換点において、その都度戦略的に注目されてきた。地球上に大航海時代が訪れて以来、そのはじめは鎖国を解き列強に対抗して国際舞台に登場したときであり、次に、第二次大戦後の民主社会への転換、冷戦構造下で経済社会がスタートするときであった。

そして、高度成長期、安定成長期を経て、成熟社会となった今日。BRICsを中心とする途上国の経済的躍進、国際舞台での影響力の拡大はめざましく、グローバル社会の到来、地球環境時代を迎えて、変化を余儀なくされる我が国の位置づけに対応し、貢献する北海道は“新たな開拓創業期”を迎えているのであり、そのヴィジョンとして、2008年7月4日に閣議決定された『地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画』は、北海道の行方(ゆくえ)、望まれる姿を示している。

いうまでもなく、北海道の開拓、開発は、明治初頭の開拓使設置以降、我が国全体の安定と発展に寄与することを目的として、他の地域とは異なる“独自の体制”下で組織的、計画的に進められており、その時々々の国の課題解決に寄与するよう推進されてきた。

その結果、広大な土地、豊かな資源、進取の気性などを背景に、先人たちの叡智と弛まぬ努力に支えられ、北海道は短時間の間に北欧の一国にも匹敵する規模の地域経済社会を形成するに至った。

21世紀の我が国は、地球規模のダイナミックな競争、生存基盤そのものを脅かす地球環境問題、かつて経験したことのない規模の人口減少や急速に進行する少子高齢化など、大きな環境の変化に適切に対応していくことが課題となっている。

このため、北海道がその地域特性と固有の資源、培われた技術(ノウハウ)、社会基盤等を最大限活用して、我が国の課題解決に貢献していくことが期待されることとなる。

新たな北海道総合開発計画を繙く(ひもとく)までもなく、我が国の食料基地、国際的な保養地、観光地としての役割の重要性は論を待たない。特に、21世紀が“水の世紀”といわれる通り、我が国の安全保障、自律の要件として、食糧自給の充足は土地と水と気候風土が豊かな北海道を除いて語ることはできない。

国際的視点は、日本とユーラシア大陸の東沿岸を中心にカバーしている地図帳をひろげて考えていただきたい(地図は「北海道の戦略的重要性」を参照)。

まず、通常北が上となっている地図帳を、東が上になるように反時計回りに90°回転させてみると、どう見えるだろう。大陸の人間には、日本列島は、広大な太平洋とその彼方にある北米との間に存在する“蓋(キャップ)”のように感じられるのではないだろうか。その印象は、大陸と北米を行き来する空・海航路上に位置している青函海峡や千歳空港ひいては北海道の可能性を示唆している。例えば、ロジスティック・ハブ機能などが注目に値することとなるのではないか。

次に、180° 回転させて西が上になるようにすると、何が見えてくるだろうか。日本列島は大陸から流れ出る様々な汚染、例えば川を通じて流出する汚濁、偏西風が運んでくる大気汚染等々の“受け皿”になっているのである。良かれ悪しかれ地球の自転が変わらない限り、これらへの対処を怠れば、待ったなしで日本列島が、まずその被害を被ることになるのである。たまに見られる黄砂や煤煙混じりの雨や雪はその前触れであり、沿岸には大量の生活廃棄物が打ち上げられている。地球環境問題は、人ごとではない切実な問題になりつつあるのであり、我が国が強いとされる最先端の環境技術の活用をはじめ、北海道で培ってきた環境対策や様々な実験的取り組みなどがその解決を支えていくこととなるであろう。その意味で、長期的な視点から必要となるエネルギー問題への取り組みのプロセスは、北海道が果たすべき先導的役割(フロントランナー)のひとつとして、おおいに期待されることになると思われる。

20100318 MS生

地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画の概要

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

- ・開拓使設置以降、特別な開発政策の下、計画的に推進
- ・国全体の安定と発展に寄与

第2節 新たな北海道総合開発計画の意義

- ・北海道の資源・特性を活かして、国の課題の解決に貢献
- ・新たな時代の先駆者としてフロンティア精神を発揮し、先駆的・実験的な取組に挑戦
- ・地域特性を踏まえた将来の豊かな社会をつくる

第2章 計画の目標

第1節 我が国をめぐる環境変化と国家的課題

我が国は、グローバル化の進展、生存基盤そのものを脅かす地球環境問題、かつて経験したことのない規模の人口減少と急速な少子高齢化という環境変化の中、大きな課題に直面

第2節 北海道の資源・特性

冷涼な気候、森林等の豊かな資源、アジアの中でも特徴的な北国らしい自然環境、北米及び東アジアとの結節点に位置する等の地理的特性、開発の歴史の中で培われてきた社会的開放性など

第3節 今後の北海道開発の戦略的目標

- | | | |
|---|---|---|
| 1. アジアに輝く
北の拠点
～開かれた競争力ある
北海道の実現 | 2. 森と水の豊かな
北の大地
～持続可能で美しい
北海道の実現 | 3. 地域力ある
北の広域分散型社会
～多様で個性ある地域か
ら成る北海道の実現 |
|---|---|---|

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間 ・21世紀前半期を展望しつつ、2008(平成20)年度からおおむね2017(平成29)年度まで

第2節 計画の主要施策 ・戦略的目標を達成するための5つの主要施策を総合的に推進

第3節 計画の進め方

- | | | |
|-------------|---------------------|---------------------|
| 1. 多様な連携・協働 | 2. 新たな時代を見据えた投資の重点化 | 3. 新たな北海道イニシアティブの発揮 |
|-------------|---------------------|---------------------|

第4章 計画の主要施策

第1節 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現

1. 食料供給力の強化と食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化

- 食料供給力の強化
- 食の安全の確保
- 食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化

2. 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興

- 国際競争力の高い魅力ある観光地づくり
- 地域経済を先導する観光産業の振興

3. 東アジアと共に成長する産業群の形成

- 地理的優位性を活かした産業立地の促進
- 強みを活かした産業の育成
- 産業育成に向けての条件整備

第2節 地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成

- 自然共生社会の形成
- 循環型社会の形成
- 低炭素社会の形成

第3節 魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり

- 広域的な生活圏の形成と交流・連携強化
- 都市における機能の強化と魅力の向上
- 人口低密度地域における活力ある地域社会モデルへの取組
- 多様で個性的な北国の地域づくり

第4節 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上

- 国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築
- 地域交通・情報通信基盤の形成
- 冬期交通の信頼性向上

第5節 安全・安心な国土づくり

- 頻発する自然災害に備える防災対策の推進
- ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の推進
- 道路交通事故等の無い社会を目指した交通安全対策の推進

付記 ・計画策定からおおむね5年後に計画の総合的な点検、必要に応じて見直し等



空知の穀倉地帯と石狩川